

学校だより

たちばな

2022年10月31日

尼崎市立立花小学校
校長 植木 加代子

秋涼し でも「チーム立花」は熱いです

朝夕がめっきり冷え込むようになり、木々の葉も濃く色づいて、秋の深まりを感じるこの頃です。さわやかな秋空の下、旅行や会食も解禁となりつつありますが、コロナの第8波やインフルエンザ流行に備えて検温や人数制限、体調管理にご理解ご協力をいただき心より感謝いたします。おかげさまで今年度は学級閉鎖もなく順調に行事や学習を進めることができています。子どもたち一人ひとりが行事で育ち、学習に希望をもって励み、来ることが楽しみな学校であり続けられるよう最善を尽くしてまいります。暗く寒くなる時節、各ご家庭でも「早寝早起き朝ごはん」で免疫力を高められるようよろしくお願いいたします。

さて欠席遅刻連絡をGooglefoamにしてから、一覧で迅速に全校の状況をつかむことができるようになりました。欠席や遅刻がないのが一番ではありますが、活用にご協力いただきありがとうございます。今、本校では一日のスタートから様々な場面で職員が学年や立場を越えて一致協力し、子どもたちを見ています。特に朝の時程を体育大会後から変更し、8:25に教室で担任と児童が一斉に挨拶をし、出欠をとり健康観察することを徹底しています。そして連絡なしで教室に姿の見えない児童が事故等に巻き込まれていないか確認するための情報共有リレーが始まります。担任は教室を離れないように子どもたちの指導に専念します。教室からインターフォンで連絡を受けた職員が、担任に代わって電話を入れたり、遅刻してきた児童の対応をしたりします。職員室の白板には、全校児童の遅刻や欠席、電話の結果やその時刻などのメモが大きく貼られ、どの職員も名前を見ては心配したり対応したりと、担任外の職員も大忙しです。連絡の結果はすぐに担任に知らされ、担任は1時間目の授業を自習にして電話をするのではなく、休み時間や手の空いた時間に連絡を改めて入れるようにしています。担任の有無を問わず、皆で全校児童を見ることで、状況を共有し子どもの話題も増えました。個別に子どもの対応が必要になる場面でも、学年を越えて職員がかかわることも増えました。全職員で全校児童をみる「チーム立花」が実現しています。一人ひとりの育ちを大切にするために、専門機関と積極的に連携していることもお伝えしてきた通りです。360度、どこを向いても先生や職員がいて受け止めてくれる、これからもそんな温かい立花小学校でいられるよう、職員一同努めてまいります。

さて、本校では幼保小連携モデル校として取り組んでいることはお伝えしてきましたが、10月は3年生が本校の屋上農園での尼いも掘りに、立花幼稚園と大西保育所の年長組園児を招待しました。総合学習として尼いもの特徴などを各班が調べ、園児を前に発表しました。その後畑に移動。つるを切り取るころから実演しました。今回嬉しく思ったことは、3年生が事前準備にしっかり取り組み、自分の役割をしっかりと果たしたことで、園児に喜んでもらい、達成感を得ただけでなく、全ての場面で学年が成長した姿が見られたことです。異年齢交流に真剣に取り組むことで得られる学びは、どんな授業にも勝る学校ならではの体験であり、価値のあることだと思いました。

10月の最終週は読書週間でした。今年は図書委員会がしおりを用意してくれましたが、どの学年の子どもたちも、しおりを楽しみにして、時間を惜しんで競うように本を読んでいる姿が印象的でした。ブックママのお母さま方にも、朝の読書の時間に全校中継で読み聞かせをしていただきました。まだ暑かった時期、熱中症指数が高く外で遊べない昼休みに、オルゴール音を流し「立花シエスタ」で全員昼寝としたところ、どうしても図書室に行きたい！という嬉しい反対意見が多く飛び出し、「立花ルーエツァイト（ドイツで静かに過ごす昼休み時間）」と変更しました。それくらい子どもたちは読書が大好きです。

11月は図工展から始まります。いつもの体育館が美術館に変身しています。どうぞご期待ください。

「登下校見守りの皆様、旗当番の保護者様。他地域から“取り組みがきめ細やかで温かい”と声が届いています」